

大城ひかるのベトナム



通信

シンチャオ
(Xin chào)
おきなわ



初代ザロン帝が母親（皇太后）の住居として建造した延寿宮。門からすると正面にひんぷんがあるのが見える

南北に長いベトナムは北部、中部、南部と分けて語られることがよくあります。年がら年中暑い田んぼやココナツ林が広がる南部、フエやホイアン、ミーソンなど世界遺産が集中する中部、3000m級の山があり中国と隣接する北部など、気

候や地形が大きく異なり、住民性にもそれぞれ特徴があるようです。ハノイを旅行したときガイドから「お金があったら北部の人は家や車を買う、中部の人は貯金する、南部の人は旅行に行く」と聞きました。南部の人が享乐的だと言っているわけではありませんが、やはり経済的に発展し災害もほとんどない南部と、毎年のように台風や雨季に洪水が発生する中部では人の性格が変わるのも無理はないかもしれません。ベトナムに来たばかりの頃、沖縄の迷走台風のニュースを聞きました。さっそくエンジニアのクラスで紹介し「面白いで

北中南部で異なるベトナム人

しま」と言ったところ、学生に「私の田舎は毎年台風で大変です。台風が面白いことはありません」と喝。のちに中部ではおかずがないとき、「マム（小さな身が入った魚醤）をご飯の上にかけて食べた」との話聞き、戦後、開拓団として石垣島に渡った沖縄本島の人から「貧しくて、ご飯に醤油をかけて食べた」と聞いたことを思い出しました。どこでも、「口は禍の元」です。

ホーチミン以南の南部と、グエン王朝の城下町フエがある中部では文化も大きく違ってきます。初めてフエへ行ったらと、き、ひんぷんがあることを知り、とても驚きました。一戸建てが少ない中心部ではあまり見かけなくなりりましたが、王宮の中や郊外には残っています。塀の一部と化している例も見られます。名前もビンフォン（屏風）と知り、一気に親しみを感ずりました。

北部へは一度しか行つたことがないので、あまり詳しくはないのですが、ハノイでベトナム最古の学校である孔子廟や1000年前のタンロン城址を見たときも懐かしい感じを受けたものです。ホーチミンでは一度もビンフォンを見たことがなかったのですが、帰ってから同僚や学生に聞いてみたのですが、やはり誰も知りませんでした。一方、メコンデルタ以南ではクメール（カンボジア）文化が色濃く見られます。例えば、ベトナムは国民の多くが仏教徒

なのですが、メコンデルタには上座部仏教の寺院が見られます。仏像とヒンズー教のガルーダが共存しているのはなかなか興味深いものです。特にチャービン省、ソックチャン省はクメール系住民が多く、古い寺院も残っていて、人口の85%を占めるキン（京）族とは肌の色や顔つきも違ってきます。

ベトナムには53の少数民族がいて、北部でも中国と国境を接する省から来た学生は容貌だけでなく名前もちょっと変わっています。最近では「北部から来ましたか」と当てられるようになりまして、このように地域の歴史や違いなどが分つてくると、旅行へ行くのがさらに面白くなりますが、休みが少ないベトナム。次々と行きたいところが増えて困ります。